

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/24】

女子準々決勝

愛知選抜 9

0	—	5
4	—	1
2	—	3
3	—	6
PSO		

15 神奈川選抜

審判： 中 哲朗
橋本 寛一

愛知選抜	23	SH数	24	神奈川選抜
	0	速攻数	4	
	6	ST・SB	16	
	5	SH・P誘発アシスト	14	
	6%	GK阻止率	36%	
0	EX反則数	9		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

1回戦の大阪戦で完勝した神奈川に対して、混成メンバーで構成された愛知との一戦。愛知はコロナ禍でなかなか実戦練習や試合経験がなく、試合の立ち上がりが課題となるだけに、神奈川がそこを確実に突いてくるかどうか。

1P

戦前の予想通り、愛知はいろいろな場面でミスが出てしまい、そこを神奈川が積極的に攻めて次々に点を決めていき、あっという間に愛知0-5神奈川という展開になった。愛知はほとんどシュートにまで攻撃がつかず、かなり一方的な展開となってしまったが、これも実戦不足の影響が色濃く出ている様子だった。

2P

しかしながら、愛知・奥岡が相手ボールをタイミングよく奪取すると、見違えるような攻撃となり、愛知・守谷がセンター位置で退水を誘発し、そこを佐藤が決めると第1ピリオドとは別チームのごとく積極果敢なディフェンスからの攻撃が生まれ、次々に得点を挙げていった。特に起点となった守谷のプレーが光り、ここぞというタイミングでのパスが冴えわたって、ペナルティを含む4連続得点で愛知5-5神奈川という状況には目を見張るものがあった。

しかし神奈川もピリオド終了間近には相手パスミスに乗じて橋本が決めて、愛知5-6神奈川と1点差リードで前半を折り返した。

3P

このピリオドは双方が持ち味を發揮しての取って取られての応酬となったが、神奈川のリズムを取り戻した立役者はやはり定評のあるGK甘庶のプレーだった。積極的に前に出て相手ボールにからんでボールを奪取し、それを起点として安藤や宮尾が決めて、神奈川優勢を取り戻した。ここで愛知7-8神奈川と、神奈川1点差リードで勝負は最終ピリオドに。

4P

愛知はここまでよく粘って戦ってきたが、明らかに疲労の色が目立ち始め、徐々に攻撃と守備との距離が開く形となってそこを神奈川に攻め込まれてしまっ点差がじりじり引き離されていった。そしてこのピリオドの勝負を決定づけたのがやはりGK甘庶のプレー。またしても相手ボールをスチールして裏に出た速攻へきれいなアシストパスを投げ、橋本が確実に決めて愛知の反撃を完全に立った形となった。

愛知は強豪の神奈川相手にひるまずに積極的にプレーできたことは大いに自信になったであろう。今後の成長が楽しみだ。

【プレー分析から】

通常なら、50%以上のセーブ率をキープできる神奈川GK甘庶であるが、この試合では愛知の攻撃の方が上回っており、好セーブからの攻撃起点という神奈川リズムにはなかなか持ち込めなかった。しかし、GKの役目はセーブだけではなく、積極的にボールに絡んで奪取することで攻撃起点になることから、この試合でのGK甘庶のプレーは見事なものがあった。

シュート数は両チームともに互角であったが、惜しむらくは愛知側の退水時のシュートが決まらなかったことが敗因の一つであろう。愛知の速攻場面はなかったものの、中盤からのドライブ攻撃などで退水を誘発し、数的有利な状況であったにもかかわらずそこを決めきれなかった。確かにGK甘庶の好守備が頭をよぎったこともあるだろうが、退水セット攻撃でのチームプレー練習が課題であろう。